

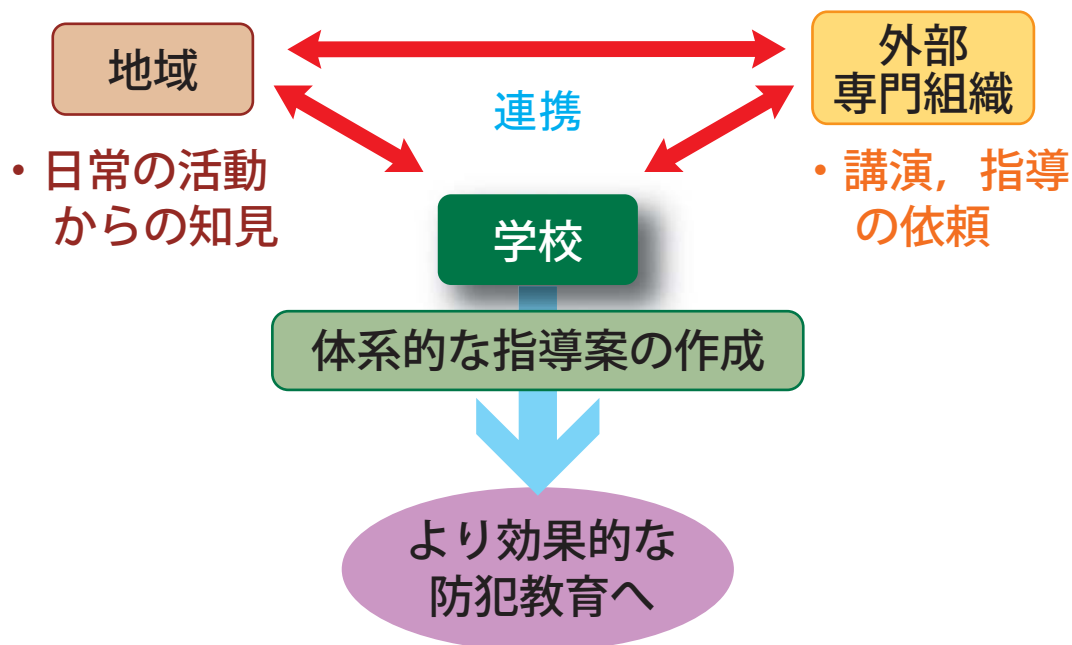
9

学校での防犯教育

学校での防犯教育を知ろう

学校での防犯教育を進める上でのポイントは、学校の主体的な姿勢と外部組織の連携です。まず何より大切なのは学校が主体的に防犯教育に取り組む姿勢です。校区の子どもは学校が守るという意識が大切です。また、具体的に防犯教育を進める上で、地域や外部の防犯組織との連携が欠かせません。指導内容が適切であるのか、内容に偏りが無いのか効果的な指導はどのようにすればよいか、防犯指導を学校だけで抱え込むのではなく、子どもたちの日常を熟知している地域の方や、防犯教育の経験を多く積んだ外部組織の指導を仰ぎ、連携して防犯教育を進めることが大切です。

学校で年間を見通した防犯に関する指導計画を立案する際にも地域や外部組織の方に加わっていただき、体系的な計画を作成することが肝心です。



学校の防犯教育を地域でサポートしていきましょう！

- 規準表 <25a> 学校の特性に応じた防犯対策について理解している。
<25b> 学校で実施されている防犯の研修内容について理解している。
ねらい ②学校で行われている防犯対策や防犯訓練の内容を知っている。
 ①防犯教室で子どもたちが指導されている内容を知っている。



具体的な指導内容を把握しよう

学校での防犯教育は主に次の3つの場面で実施します。

まず、避難訓練や全校集会などの特別な時間枠を設けて行う指導です。学校では学期に一回程度、火災や地震、不審者の侵入などを想定して避難訓練を行います。このような機会に警察や外部の防犯組織から講師を招いて低・中・高学年別に指導することも有効です。

次に、朝の会や帰りの会など日常的な学級活動で行う指導です。それぞれの教室でばらばらに指導するのではなく、4月は「安全な登下校」、5月は「地域での生活安全」、6月は「不審者から身を守る」などのように毎月テーマを決めて全校で取り組む例も見られます。



さらに、各教科等の授業の中でも防犯教育を実施します。新しい学習指導要領では生活科の中に「通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもち、安全な登下校ができるようにする」という内容が追加されました。また、体育の保健の領域では喫煙や薬物乱用の防止が指導内容に含まれています。このような3つの指導の場を通して、学校で継続的に防犯教育を指導することが大切です。

 **ビデオ教材** (ビデオ→ 学校での防犯教育)

※学校での防犯教育のポイントについてまとめましょう。

ビデオ資料 (関連ビデオ→ 学校における防犯対策について、子どもへの防犯指導)

ビデオの事例を参考に、学校での防犯対策と、子どもへの指導についてまとめてみましょう。

Column

地域によって学校で行われている防犯教育は様々です。学校と地域での連携を図るためにも、まずは自分の活動する地域の学校でどのような指導をしているのかわかることが大切でしょう。